

# 結

ゆい

Toxic masculinity (有害な男らしさ) とは、「妻は夫に従う」というお馴染みの家父長制の帰結としてフェミニズム運動が言語化した。「支配/従属」の家父長制は、従属の側からは、女の自由がないと、フェミニズム運動になったが、支配する側の男性たちには何も不都合がないように思えるので、男たちは関心がない。しかし家父長制イデオロギーは男たちに、男らしい男になれ、暴力で支配せよと語りかける。

強い男を自他共に認めるプーチンが、バイデンの売った喧嘩を買ったのは不思議ではない。暴力的な男性性を家父長制のもたらす「有害な男らしさ」としてフェミニズムは説明する。男たちが「につぼんだんじ」であると競い合ったこの国で何が起きたか思い出そう。原爆の業火の焼け野原で『政府の行為によって再び戦争の惨禍に遭うことのないように』と、先代が決めたのが「武力の放棄」だった。勇ましいことを口にして男性性を競い合う男たちにおもちゃを渡してはいけない。//忌野清志郎の「花はどこへ行った」をネットで聞けます。「戦争やめろ！」私たちの反戦の気持ちをこの歌で共有しましょう。(たかだ洋子)

2022年 3月31日 発行：ユニオンと連帯する市民の会 「結」編集委員会

第28号



木村直樹さん。

## ユニオンと連帯する市民の会 第15回総会

2022年3月26日(土) 18:30から、労働会館第1集会室で総会/懇談会を開催し、新代表に木村直樹氏を選出した。近森泰彦さんは、相談役としてこれからも活動に参加し、役割を果たされることを確認した。写真は代表に選出された



□総会関係…	2	たかだ洋子
■選挙から見てくる日本の民主主義…	3	猿田 正機
□県立高校の統廃合・再編「構想」は何が問題か…	6	後藤 陽司
■ユニオン学校「労働者協同組合」を考えることで何を考えるのか…	8	松本 朗
□ユニオン学校「読書会『労働組合とは何か』」…	9	松本 朗
■チョムスキー「温暖化は嘘ではない、原子力はそれにまさる脅威」…	9	たかだ洋子
□女性ユニオン名古屋「支援現場から見た外国人女性たち」報告…	10	石田 好江
■日系ブラジル人の仲間たち(佐藤さゆりさんに取材しました)…	11	たかだ洋子
□新刊紹介『米中の狭間を生き抜く』…	12	柿山 朗
■狂気の時代から50年、山岳ベースから浅間山荘へ…	12	櫻井 善行
□労働運動と共謀罪(八)…	14	木村 直樹
■国策とのたたかい/奥間政則さんの報告…	15	たかだ洋子
□告知欄・編集後記…	16	たかだ洋子

## ユニオンと連帯する市民の会 第 15 回総会/懇談会

2022年3月26日（於）労働会館

総会はプログラムに従い、今年度の活動の総括、次年度の活動の方針を採択した。ユニオン学校を軸として学習会などに取り組んだこと、他団体と交流し労働運動について考えてきたことが報告された。この活動を継続し、市民運動と連帯し、共同の取り組みをさらに進め、反戦、環境、反差別等の運動と労働運動を結びつけ共同行動に取り組むことを確認した。続いて討論があり、愛知連帯ユニオンの元座毅さんからは、関生弾圧への支援活動への連帯挨拶、ふれあいユニオンの鶴丸さんからは、大手トヨタには条件もあるが下請け企業は苦しいので条件が悪くそこで働く労働者が安心して働ける労働条件を確保できるよう問題提起すると現状を語り、坂野さんは地域で赤と緑、労働も市民も一緒にやっていきたいと語り、東海合同労組一人分会からも訴えがあった。ATU全トヨタ労働組合委員長の若月忠夫さんから「愛知県11区（豊田市みよし市）問題から考える参議院選挙」と題して報告があった。4月27日には過労死問題に関わる団体の結集集会を予定していると述べた。

### ユニオンと連帯する市民の会第15期運営委員会

相談役：猿田正機、近森泰彦、中谷雄二、古木民夫 代表：木村直樹、副代表：柿山朗、事務局長：松本朗、事務局次長：櫻井義行、『結』編集委員長：大場一哉、運営委員：浅野文秀、小野政美、後藤陽司、たかだ洋子、竹久憲一郎、中村一三、吉田典子、会計：牧野三枝子、//会計監査：小林収

続いて「ウクライナ情勢について」河田昌東さん（チェルノブイリ救援・中部）から聞いた

### ウクライナ救援募金のお願い



私たちは1986年に旧ソ連時代のウクライナで起きたチェルノブイリ原発事故の被災地を過去31年間支援してきました。3月5日私たちが永年交流してきたジトーミル市第25番学校が爆撃破壊されました。（この学校の子供たちは、福島原発事故後、南相馬市の幼稚園や保育園にクリスマスカードを贈ってくれています）その際の爆風で私たちの活動を支えてきた「チェルノブイリ・ホステージ基金」の事務所も破壊されてしまいました。現地の消防士は破壊されたビルの消火・救助活動に必死です。こうした状況を踏まえ、私たちはウクライナの緊急支援を始めます。集まった支援金は現地と連絡を取り合いながら、一人でも多くの人の命を支える支援となるように、進めてまいります。人々の無事と1日も早い平和の回復を祈ってください。想定される支援：/現地に残されている人々の生活用品（医薬品、食品、衛生用品、毛布など）/救助活動に必要な物資、現地での生活資金の援助など /学校や病院の復興、消防士達の活動に必要な機材など。

#### 〈ウクライナ救援基金〉

振込口座：三菱UFJ銀行、名古屋営業部（店番150）

口座番号：普通 6949211

口座名義：特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部

# 選挙からみえてくる日本の民主主義

## －スウェーデンと比較して－

猿田 正機

はじめに

留学から学んだことは数知れずあるが、昨年末の衆議院選挙や最近の韓国の大統領選挙に触発されて、選挙についてふれてみたい。スウェーデンの選挙は、4年ごとの一斉選挙で9月と、ほぼ決まっている。この時期は、われわれ大学教員（在職中）にとっては、比較的訪問しやすい時期で、幸い二度選挙をみる機会があった。スウェーデンの選挙から学ぶべき点を、ここでは三つあげておきたい。

### 1-(1) 高い投票率

日本の選挙をみていると投票率が低いことに毎度驚かされる。スウェーデンでは毎回、8割を超えている。日本の低投票率の主な原因として考えられるのは①選挙日が不確定なこと、投票所が適切な場所になこと、②選挙制度のせいで国民の意思が結果に反映しないこと、「政策選挙」でなく「個人選挙」になっていること、③若者への「主権者教育」が欠如しており、自主的判断と主体的行動がとれない人が多いことである。

スウェーデンでは4年ごとの9月の第2日曜日に、国政選挙・地方選挙が一斉に行われる。日本のように首相の一存で突然解散などということはない。市町村長選や補選もないので、国政や自治体行政を4年間は安心して行うことができるというメリットがある。また、日本の小選挙区比例代表制とは違って地域と全国の二重の比例代表制をとっており、国民・住民の意思が、かなり正確に反映するようになっている。決定的に異なるのは、若者への主権者教育である。これは、後に詳しく触れるが、これらが高い投票率となり高い税負担を容認し「福祉国家・社会」を支えているのである。

### 1-(2) 二重の比例代表制による政策選挙

選挙制度で大切なことは、可能な限り、国民・住民の意思を正確に反映するシステムであることだ。これが決定的に違う。日本の選挙制度は、当落優先の「個人選挙」で「地盤、看板、かばん」が優先される。しかも、小選挙区で当選する人が多いため当選者数は、全体として国民の意思を反映したものとはなりにくくなっている。スウェーデンの場合には、二重の比例代表制による政策選挙で、自分の意思が反映すると自覚できる選挙制度になっており、これが国民の政治への「参加」の意識を高くしているといわれている。

「個人選挙」ではないので、立候補がしやすく、候補の順位づけに（年齢、職種、人種、ジェンダー、など）その党の特徴が表れる。しかも、誰がみても、政党の主張の違いがすぐわかるようになっている。また、日本のような「個人選挙」ではないので、煩わしい選挙活動が嫌な人でも、議員になって活躍できる可能性が広がる利点もある。しかも任期を終えたら元の職場へ復帰できやすいシステムだ。また、地方自治体の場合には、給与は時間給制であり、議員は兼業がほとんどである。

また、アメリカは二大政党制であるが、ヨーロッパの多くの国は複数政党が存在し、その政策を競っている。たとえば、スウェーデンでは、社会民主党、穏健党(保守党)、キリスト教民主党、中央党、国民党、自由党、環境党・緑、左党(旧共産党)、そして、最近急速に支持を拡大した、移民排斥を掲げる民主党である。ただし、今回のウクライナ問題で

は、全政党が難民の受け入れに賛成している。そのうえ、各党の将来像やそのための政策も、日本とは違って、国民に分かりやすい。

日本政治の特異な点は、たとえば、スウェーデンなどのように、中道左派の社民党や環境党・緑などが育たない一方で、共産党が一定の力を保持し続けていることである。しかも、かつては、右派の「民社党」や自民党が「福祉国家」を掲げ、左派の、社会党や共産党が「北欧福祉国家」などを「国家独占資本主義」と批判し続けてきたという負の歴史もあり、今も、残存している。

### 1-(3) 政策選挙と主権者教育

日本の選挙戦は「政策選挙」ではなく、主として「個人選挙」になっている。これは「主権者教育」にとって大きなマイナスで、子どもたちの政治への関心を削ぐ役割を果たしている。日本国民は憲法で主権を保障されているが、子どもの頃に主権者としての教育なり扱いを受けるといことがほとんどない。小中高は「管理教育」や「受験教育」のために主体性が育ちにくくなっている。

選挙と関わることなので、ぜひ触れておきたいが、スウェーデン人にとって高校を卒業して大人になることの意味は非常に大きいという点である。記念写真を撮ったり、お祝いをしたり、自動車に乗ってとぼしたり、様々なことをして成人を祝う。街が少し騒がしくなる。これは日本のような受験競争や大学入試がないからである。スウェーデンで高校卒業とは、人間的にも、市民としても、また、経済的にも家族などの世話にならずに、自分ひとりで自分の責任で生活ができるようになるということを意味している。当然のことながら、選挙権・被選挙権は18歳からである。そのための前提として、基礎教育の時代から大人になるための主権者教育が重視されている。これが日本に決定的に欠けている点である。

北欧を勉強していて、もっとも学ぶべき点

の一つとして挙げるべきは、若いころから、相手の話をよく聞き、自分の考えを述べ、どんどん議論をすること、そして、最上の妥協点を見つける努力をする習慣を身につけていることではないかと思う。それを政治レベルでは、コンセンサス・ポリティックスと呼んでいる。ニールセン北村朋子さん(文化翻訳者)は、デンマークを例に挙げ、「最上の妥協点、着地点」(セカンドベスト)と呼び、「しかも結論が出て終わりではなく、おりを見ては議論を続けます。だから議論がつきません。決めたら終わりではないのです。」と述べています。もちろん、そのためには、正しい情報の提供や「本音と本音」で話し合う習性を身につける若者教育が必要である。

スウェーデンの場合には、若者の7割が参画しているといわれる「若者団体」の諸活動が子供の主体性を育てるうえで、果たしている役割が大きい。そのなかには「若者協議会」や「政党青年部」、とりわけ「趣味でつながる若者団体」が民主主義を実践するチャンネルのひとつとして機能している。それを政府が「助成金交付」で財政的に支えている。しかも、「金は出しても口出さず」というスタイルが、若者の民主主義の育成を支えている。とくにユニークなのは、無料のユースセンターを利用した「余暇の保障と意思決定の尊重」である。

学校には「生徒会」や「生徒組合」があり、しかも、高校段階では、選挙前には公開政策討論会や一般の選挙に似せた模擬選挙、「学校選挙」も行われている。各政党の代表は多くの基礎学校や高校を訪れ政策の違いを説明する。中学や高校の授業の中でも、生徒がグループにわかれて選挙小屋を訪問したり、各政党の政策を勉強し、教室や廊下に掲示したり、美術の時間に政党のポスターを描いたりする。環境保護活動家のグレッタ・トゥーンベリさんが有名になっているが、そのような人を育てる土壌もここにある。日本の教育では「政治や選挙の話はタブー」となって

おり、そのうえ小中高校の職員会議すら「報告・連絡・相談」のみで、真剣な議論ができなくなってきているが、それは大学にも広がりつつある。しかし、スウェーデンの教育では、選挙そのものが生きた社会教育である。その結果、スウェーデンでは、「政治は大切なもの。住みよい社会をつくるには、政治参加が必要」というコンセンサスとなっている。投票率の高さにそれが反映している。

## 2. 日本の大企業労働組合と民主主義—トヨタの事例—

日本の大企業職場から民主主義が消えて久しい。かつて、熊沢誠氏が『民主主義は工場の門前で立ちすくむ』を書いたのは1983年であり、愛知労働問題研究会が『大企業労働組合の役員選挙』を出版したのが1986年のことである。この頃すでに。大企業職場や大企業労組の民主主義は極端に劣化していた。自由な議論・選挙をする雰囲気は、ほとんど失われていた。それから既に、36年が経過している。その間に、非正規労働者は激増し、実質賃金は低下を続け、長時間・過密・不規則労働は解消されず、「過労死・自死」は頻発している。

トヨタ労働組合の組合員が人々の目に触れるのは春闘時に片手をあげて闘いをアピールする時のトヨタ従業員の姿であろう。これだけは毎年のように新聞などマスコミで報道される年中行事となっている。それ以外では、よほど注意していても、目にすることはない。YouTubeのトヨタタイムズで「トヨタの春交渉 2020 第1回」の様子が放映されている。会社側はこの労使協議会を「家族との会話」と言っている。しかも、経営陣とマネジメント、そして労働組合が机を三角形配置して並んで相対している。驚くのは、豊田章男社長はトヨタの従業員を、「家族、家族」と言っていることである。そして、社長は自分のことを「家長」である「私」と言っている。しかも、労働組合員をマネジメントの

「映し鏡」まで言っている。

もう一つ気になるのは、たとえば、仲間が「過労死・自死」で、相次いで亡くなっているのに、労使で真剣な話し合いをしないトヨタ労働組合への驚きである。社長は「一番、距離感、違和感を感じているのは事技職の上司だ」と強調していた。そして、最後に、組合を含め「Youの視点」が欠落していると指摘し、相手の立場も「配慮」せよで、締めくくっている。言おうとしていることは、間違いではないが、言っている本人が相手のことをどこまで考えていっているのかは疑わしい。

最近の相次ぐトヨタのパワハラ自死裁判で、トヨタは声明を公表したり、労務の改善策を次々と公表しているが、労働組合側の動きはほとんど見えない。むしろ、トヨタ労組や全トヨタ労連がトヨタ労働者や関連企業労働者、さらには、期間工など非正規労働者への格差・差別政策や労災・過労死・自死が公に発覚しないように前面に立ちふさがっているかのようにさえ見える。

トヨタ労組が今回の衆院選で、組織内候補の立候補辞退の理由として挙げている「カーボンニュートラル」問題はトヨタにとってのみならず人類にとって、確かに重要なテーマではあるが、現状では、肝心の賃金・雇用・労働時間などの問題から労働者の意識をそらす効果しかないであろう。「労使協議」にしても「春闘離脱」や「候補者辞退」にしても、主体としての労働者の意識を逸らし、労働運動を骨抜きにする役割しか果たさないであろう。賃金にしても「気候変動」や「ウクライナ」問題にしても、経営者に任せれば解決する問題では決してない。民主主義の拡大・深化こそが必要である。このままでは労働者のみならず将来を担う若者世代への責任をまったく果たすことはできないだろう。大事なことは、各種テーマで、組合員間で要求を練り上げ、労使間で真剣な議論のできる自由で民主的な雰囲気を作り出す努力をするこ

とだろう。これが完全に失われると、第二次世界大戦当時の「産業報国会」と同じになる。

### おわりにー民主主義の成熟

日本の将来を考えた場合、選挙制度の民主化は極めて大切である。政治家の目先の利害に踊らされないためにも、主権をもった国民の意思を反映した、落ち着いて政治のできる選挙制度が不可欠であろう。福祉国家・スウェーデンを支えているのは、国民の民主主義意識の高さである。それは、高い投票率にも現れている。しかし、その背景には、子どもの頃から重視されている民主主義を尊重する主権者教育や若者政策がある。

いまの日本の労働組合運動や政治は、当事者である組合員や国民の意思を反映する制度

になっていない。市民社会の基礎をつくるうえで、地域や学校の様々なレベルで子どもたちが民主主義を学ぶことは、将来を考えるうえで必須であろう。内閣府『我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(平成30年度)』(7カ国)によると、「自国で誇れるものは」の問いで、「将来発展していく可能性があること」を選んだのは、トップはスウェーデンの31.4%で、日本は最下位の7.3%であった。日本には、個々人の主体性を育てる自由や環境が、大きく後退しているのではないか。これを育てるには、地域の「若者運動」や労働運動、市民運動、学生運動、NPOなどの諸活動を大切にすることが重要である。これらが政治意識を高め人間を成長させる。人間性・連帯感の成長なしに国の発展はないであろう。



## 県立高校の統廃合・再編「構想」は、何が問題か

後藤 陽司

### 愛知県の「県立高等学校再編将来構想」

今、県立高校で大きな再編が進められようとしています。昨年末、稲沢高校・稲沢東高校・尾西高校を稲沢高校に「統廃合」、津島北高校・海翔高校を津島北高に「統廃合」する「県立高等学校再編将来構想」(以下「構想」)が発表されたのです。愛知県教育委員会は突然、2021年11月に「構想(案)」を発表し、12月に正式決定しました。この

「構想」は県立高校の「統廃合」と「学科再編」を、2023年度から2035年度にかけて断続的にすすめようとするものです。「構想」では上記の「統廃合」計画に加えて、犬山南高校を「DX人材」や「起業家マインド育成」を目的とした学校に「学科改編」、「多様な生徒を受け入れるインクルーシブな

学校」として、御津高校を全日制(単位制)と昼間定時制(単位制)を併設した学校に「学科改編」する計画も示されました。さらに、「企業が求める人材育成」として商業科10校を「高度な専門性を身に付ける学校」「地域密着型の学校」「デジタル人材育成」「就職を目標とする学校」の4タイプに「学科改編」する計画も示されました。

### 今後も続々と押し寄せる「再編」の波

「構想」では、「全日制への進学率の低下や欠員の急増」「中学校卒業生数は、現在の約7万人から1.3万人程度減少(国公立高校で200学級減に相当)」することを示し、

「新たなタイプの学校を用意するなど、中学生が学びたいと思う学校づくりを進めていかなければならない」などとしています。そして、「具体的な取組を検討し、順次、公表」するとしています。これにより、「統廃合」や「学科改編」などが繰り返し押し寄せることが予想されます。

### 「構想」は密室で協議されている

今回の「構想」の最大の問題点は、密室で作成され、県民の声や要求が反映されたものになっていないということです。「中学生が学びたいと思う学校づくり」を進めると言いながら、当事者である中学生や現場の教職員の声は聴かれていません。パブリックコメントの意見の大半は、この「再編」への疑問の意見だったにもかかわらず、県民の切実な声は切り捨てられています。

### 迷走する「構想」

2003年新聞紙上で、「海南高校を廃校にして、蟹江高校に統合する」という記事が発表されました。しかしながら、愛知県教育委員会はその後迷走して、なぜか蟹江高校を廃校にして、海南高校の地に海翔高校を創設しました。海翔高校は普通科(環境防災コース、スポーツコース、普通コース)と福祉科を設置する県内初の総合選択制の高等学校として2005年にスタートし、今年でまだ創立17年の学校です。その福祉科のある海翔高校を廃校にすると「構想」されています。出来て間もない学校が廃校になるのは異常なことです。福祉科の施設を何億円もかけて建設したばかりなのに、それをなくすことは、教育行政の大失敗にほかなりません。たとえ中学校卒業者の減少を根拠にするとしても、作ったばかりの高校を廃校にすることには大いに問題があります。介護をはじめとするケア労働者などエッセンシャルワークの大切さが叫ばれているこんにち、福祉科を有し、介護福祉士の合格率も全国平均を大きく上回るようになり、

地元の福祉施設に多くの卒業生が就職している海翔高校こそ残すべきだと考えます。

### 県立高校のない地域ができる

海翔高校がなくなると、尾張の最南端に位置する弥富市、蟹江町、飛島村には県立高校はゼロになってしまいます。一方その北に位置する愛西市、津島市、あま市には、県立高校が7校もあります(これらとて今後「統廃合」の対象にされていく可能性はあります)。人口比で差があるとしてもアンバランスであることは明らかです。地元では、海翔高校がなくなると、「隠れ学費」が高い私立高校に通学するのは経済的負担となる、交通費がかからずに気軽に自転車通学できる学校の選択肢が減る、不登校の生徒が社会復帰するための細かいサポートをする高校が無くなる、地域から高校生姿が消えて「まちのにぎわい」がますます失われるなどの声が寄せられています。

### 県民運動が始まっています

こうした「再編構想」を撤回させるため、愛知県高等学校教職員組合を中心に、2022年2月13日に県民集会が愛西市で開かれ、署名運動も取り組まれています。また海翔高校の地元弥富市で「福祉の拠点校、海翔高校を存続させる会」が3月19日に発足して、保守層や無党派の人も巻き込んで地域から反対運動を進めようとしています。さらに、「革新県政の会」を中心にして、2023年2月の愛知県知事選挙に向けて、一大争点にしていく取り組みも始まっています。みなさま、市民として、労働者として、地域から職場から、ぜひこれらの運動にご協力ください。



## “労働者協同組合とは” を考えることで何を考えるのか

橋本吉弘さん（日本労働者協同組合連合会元顧問）

松本 朗

2022年1月21日、名古屋市民活動推進センター集会室、19名が参加。2020年12月に成立した労働者協同組合法は労働者の働き方をめぐる問題で多くの注目を集めており参加者は熱心に聞き入りました。

橋本さんははじめに協同組合の歴史的経緯を解説し、「戦前には産業組合法の下、生産組合（生産施設の共同利用）はあったが協同組合は認められず、

協同組合の提唱には社会主義者の幸徳秋水ら関わっていたため官憲から弾圧された。」

「戦後の1946年には「日本生産合作社協会」が創立し、新しい生産自治体構想を提唱した。日本生産合作社は、これら小工場のなかで「勤労者で組織する生産組合的な企業形態」で、「生産合作社」と名付けた。協会に連絡のある合作社は、300社にもなったが、1948年には経営悪化で倒産が続出し、基盤を失った日本生産合作社は自然消滅。」「敗戦後、1945年10月頃からの労働組合の争議手段として自然発生的に生産管理の闘争がおこり1970年代には労働者自主生産運動がおこる。1980年前後になると新しいタイプの労働者協同組合が登場し、全国自由労働者労働組合から発展した日本労働者協同組合連合会、生活クラブ生協などの組合員を主とするワーカーズ・コレクティブ、さらに農漁村の村おこしグループなどが出てきました。」と述べました。

次に労働者協同組合法について解説。「こうした流れで昨年12月に労協法が成立しました。

協同組合の三原則は①組合員が出資すること。②その事業を行うに当たり組合員の意見が適切に反映されること。③組合員が組合の行う事業に従事すること。だが従来は『出資・利用・

参加（決定）』の三位一体の原則と言われてきたが、労協法では、『原理』と表現されると共に、決定参加は『意見反映』に置き換えられた。」また収

益の配当については様々な問題があり疑問が残ると述べました。

最後に労協法に基づく労働者協同組合の設立または組織変更を予定する団体の現状について「現状では、労協法は公布されたものの未施行なため、労協法に基づく団体はないが、労協法の施行にあわせて労協の設立または、現在の組織からの変更を予定している団体の現状を見てみます。」と述べ「日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会（加盟組織31団体・就労者1万5600人）」「ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン（2020年の時点で2万5000人から3万人が就労）」の組織を紹介しました。そして資本主義法としての労協法の基本的な性格とその限界を越えるために、労働者協同組合と組合員との「労働契約」締結が必須要件であること、協同組合が社会的にも、経済的にも存立する条件、労働者参加の重要性と「意見反映」の進化などについて語りました。





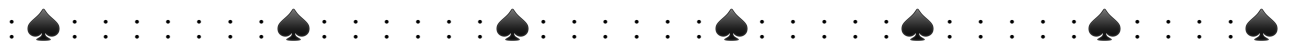
読書会『労働組合とは何か』木下武男著

//コーディネーター/桜井善行さん

松本 朗

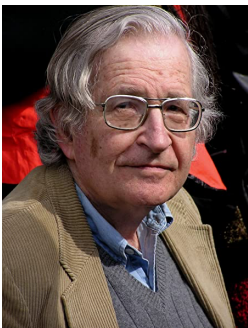
2022年2月25日名古屋市民活動推進センター集会室。参加者は11名。第1章から5章まで世界史的視点からの「本当の労働組合」の歴史について。6章では産業別組合の総論とまとめ。7章では「本当の労働組合ではない」企業別労働組合の戦前戦後史。8章では「本当」と「本当でない」労働組合との比較と提言。ポイントは「労使自治」。日本のまがいもの労働組合は労使自治の歴史がなかった。この本は社会党ブロックへの回帰を求めているのではない。日本では「本物の労働組合」は育たなかったと指摘。また著者は政党による労働組合への介入を批判しているとして、国労や日教組への記述がないことに触れ、著者が、これまでの運動の意義を認めてもこれらをモデルにしたこれからの運動には意義がないと判断したからだろうと解説しました。この本における「本当の」労働組合とユニオニ

ズムの定義について検討してみると「本当の」労働組合とは法的正当性以外の価値判断で世界標準の産業別労働組合と定義されているとし、かといって産業別組合なら何でも良いというわけではなく交渉の実力など世界標準に達している必要があるとし、その世界とは欧米であると著者は述べている。「ユニオニズムという言葉は場面により様ざま。「産業別労働組合」の“思想”や“思想の高まり”、“歴史的標準”、または「産業別労働組合」実現の運動エネルギーを指す場合などである」とした。全労連でも企業別組合の克服という課題はあったが政治的課題に傾斜したことは否めない。労使の対抗軸があいまいな組織（年金者組合・未認可保育所・学童保育・医療機関など）が多いため政治的課題に取り組んで満足することが多かったのではないか。そして政治を変える必要はあるが順番をまちがえると労働者についてこない。安保、9条改憲、自民党に反対だから労働組合に結集するのではない。まずは労働者の要求から高い次元へ昇華させる。そして労働者の権利と生活はお任せでは守れないということを自覚しなければならないと述べました。



## チョムスキー「温暖化は嘘ではない。原子力はそれに勝る脅威だ。」

『気候危機とグローバル・グリーンニューディール』（ノーム・チョムスキー他共著）日本語版の出版記念



2021年12月12日直接チョムスキーの声を聞くことができた。チョムスキーは「COP26で世界の指導者たちは『とりあえず来年も会いましょう』と決めただけだった」と、彼らしい皮肉で始まったので笑ってしまった。彼は脱炭素・気候危機の問題の重要性を議論したのちに、原発は事故があると、やはり心配ではないかと問われ「原発の問題は地球温暖化よりも、もっと大きな危機だ。事故だけの問題ではない。これは戦争の問題でもある。小型の原子炉を多数配置するという議論があるが、とんでもない」と認識を示した。西洋では、原発はクリーンなエネルギーだと議論され、脱炭素を口実にフランスが原発推進に舵を切った渦中であって、彼の発言は、衝撃的に重要だと思った、(T)

☆図書紹介☆ストロンチウム90の影響と思われる病（骨髄異形成症候群）のために一昨年亡くなられた故松井英介さん遺稿集『核のない未来を願って』希望の方に一冊三千円で。問い合わせは07016196435 高田まで

## 杉戸ひろ子さん「外国人女性労働者の実情を知る」

### ～支援現場からみた外国人女性たち～

報告：石田 好江（女性ユニオン名古屋）

2021年2月27日（日）、長くこの地域で外国人女性の支援活動を行っている杉戸ひろ子さん（そうみ：SEWMIー移民女性自立の会、移住者と連帯する全国ネットワーク運営委員）をお迎えしてお話を伺いました。市民の会の皆さんにもご参加いただき、充実した会になりました。以下がその概要です。

#### <日本に暮らす外国人女性の特徴>

外国人女性たちになぜ日本に来たのかと訊くと、ほぼ全員が「自分の国に仕事がないので働くため」と答えます。彼女らは自国の家族を仕送りで支えるという重責を担っており、彼女らにとって日本人や永住権をもった男性との結婚は仕事を得るための手段になっています。その彼女らにとって命の次に大事なものがビザ（在留資格）です。在留資格によって日本での暮らしが大きく異なってくるからです。とくに、ビザがない・ビザの切れた非正規滞在者は不法移民として厳しい取り締まりの対象になります。しかし、取り締まりの目をくぐって就労したり、永住権を持つ人と在留資格を得るために結婚するなど歪んだ形で日本社会に定住しているのが非正規滞在者の実態です。いま、日本に暮らす外国人は300万人です。政府が移民は受け入れないと言い張っても、彼女らは紛れもない「移民」です。実態と矛盾する日本の移民政策が問題を大きくしていると言えます。

#### <外国人女性への支援の実態>

様々な相談が持ち込まれます。一般的なものとしては「区役所・市役所などから届いた書類を読んでもほしい」「申請などの手続き方法がわからない」「一緒に行政の窓口に行ってもほしい」などですが、こうして相談できる人はいいいのですが、アクセスできない人の方が多いのが実情です。「日本人夫に子どもを取り上

げられ家から追い出された」「子どもに障害があるが、支援クラスか支援学校がいいのか」のような相談については、まずは行政への同行支援をしますが、実際はしてもらえることは少なく、様々な機関につなげて解決を図ります。「血便が出ているが、26年間オーバーステイで健康保険証がない」「日本に来る前に上腕に埋め込んだ避妊具を取り出したい（技能実習生などに多い）」のような対応できる医療機関を探すようなケースでは、名南病院のような無料低額診療の病院につなげています。「夫に騙されて離婚届にサインをしてしまった」なども多いケースですが、裁判はできないため離婚の不受理届を出させています。コロナ禍で生活困窮に陥った外国人女性の相談が増えました。生活困窮者については仮放免の人以外は生活保護につなげています。

#### <何が必要か>

多文化共生をうたいながら多くの機関は情報提供にとどまっています。外国人支援には同行支援や通訳支援が必須です。そのためには、同行・通訳支援の養成とそれらの支援を有償労働にすることが求められます。また、名古屋入管収容施設で命を落としたウィシュマさんの事件で、ウィシュマさんが同国人男性からDVを受けていたことが明らかになり、外国人のDV被害に焦点が当てられたことは前進でした。入管のあり方をこの点からも見直す必要があります。

## 講演後のディスカッションから

名古屋ふれあいユニオンの佐藤さゆりさんからは、日本語がわからない多くの外国人から相談を受けている。女性についてはこの間、妊娠による解雇の相談が多く寄せられた。また、定年を迎える中高年の外国人女性たちが将来への生活不安を抱えていること、うつ症状の外国人女性たちが大変多いことの報告がありました。猿田正機先生からはスウェーデンでは大量に移民を受け入れており、近年も

イスラム教国から子どもをたくさん受け入れた。そうした子どもや若い移民には、スウェーデン語を教えることはもとより、母国の言語・文化もきっちり教え帰国することも想定したきめ細かい対応をしていると、スウェーデンの共生的な移民政策の紹介がありました。お二人以外の皆さんからも多くの発言があり、ここでの成果を次の活動に繋げていくことが確認されました。

..♥..♥..♥..♥..♣..♣..♣..♣..♣..♣..♠..♠..♠..♠..♠..♠..

## 日系ブラジル人の仲間達、2022年の合言葉【力を合わせて強くなる】



名古屋ふれあいユニオン副委員長・浅賀井製作所分会長・佐藤さゆりさん (左写真)

“仲間づくりは楽しい”

佐藤さんの働く会社は、日本人



は正社員、日系ブラジル人は契約社員という。契約社員は正社員よりも給料が低く退職金がない。日本には同一労働同一賃金の言葉があるのだから、同じ仕事をしているのに差別しない！中谷弁護士に相談しながら幾人かは賃金未払いの訴訟をしながら働いている。佐藤さんは仕事が好きでよく働く人だ。すでに30年近く日本で暮らし、働きながら結婚し三人の子供たちも立派に成長した。同じ会社の人ばかりでなく会社は違っても同郷の人に声をかけ、言葉の支援をしたり、悩みを聞いたり。「楽しいことしないと辛くなる」でしょ？一緒に楽しむことが力になる。ふれあいユニオンにブラジル人の分会をすでに6分会作ってしまった。分会長たちとはラインで繋がって相談に乗っています。互いに知り合って仲間になる秘訣は？「交流会は料理作りから一緒にやります。」ほらっ→喋りながら料理を作って忘年会。組合以外の人も参加して「こんな楽しいことなかったよ」と抱き合って楽しんだ。(コロナの前ね)

**無年金の問題もある。**日系ブラジル人を迎え入れた時、最初は帰国を前提とした制度だった。年金問題が理解されて彼らがやっと年金に加入できたのが10年前だ。そのためすでに長年働き続けてもうじき定年を迎える人たちは老後に満足な年金が見込めない。

**日本語の契約書類**が読めないために思い違いのトラブルになる事もある。失敗をしてふれあいユニオンとつながって次回からは支援を得て大丈夫になるケースもある。佐藤さんの職場でも人間たちのハラスメント(本人に罪のないことで馬鹿にする)は時々起きるのだ。その時に



彼女が偉いのは、心に思ったら直ぐに声に出して、それを咎める。黙っていないのだ。間違っていることは間違っていると、目の前で声に出して抗議して問題にする。そこで会社を辞めようかなと弱気になった人に、その必要はないよと、一緒に楽しいことをする。たとえば、美味しいお団子を一緒に食べに行った。(←左は美味しいお団子の写真) (取材：たかだ洋子)



## 米中の狭間を生き抜く

### 対米従属に縛られないフィリピンの安全保障とは

企画：新外交イニシアティブ 編著：猿田佐世 発行所：かもがわ出版



柿山 朗 (元海員組合)

台湾有事の喧噪が、ロシアのウクライナ攻撃でいっそう拡大する。琉球弧の日米の軍事基地化が急ピッチで進む。一方、台湾の南に位置するフィリピンやアセアン諸国ではどうなのか。“Don't make us choose” と米中いずれかひとつを選ぶことを拒否する。

フィリピンには米軍基地を撤去させ、地位協定を破棄した経験がある。現在の、したたかな外交を支えている土台にマルコスを退陣に追い込んだ市民革命の記憶が民衆の中に残る、という指摘は貴重だ。長い船員生活の中、10年余彼らと日常生活を共にしたが、融通

無碍ぶりの裏側に潜む彼らの誇りを改めて思い知る。

.....

## 狂気の時代から 50 年 山岳ベースから浅間山荘へ

劇画「レッド」山本直樹著 から あの時代をふりかえる

櫻井 善行

はじめに

50年前の今頃、日本人の多くはテレビ中継に釘付けとなった。山岳ベースの拠点を警察に追われた「連合赤軍」の残党5名が、軽井沢の浅間山荘に立てこもり機動隊と銃撃戦を繰り返した光景である。この出来事だけでなく、「山岳ベース」における「総括」で多くのメンバーが命を落としたことが明らかになった。ここから恐怖の過激派の「残虐で愚かな行為」への非難が氾濫する。この出来事を契機に1970年代はじめにはまだ小康状態になっていた学園の喧噪は完全に消滅した。以降、学園では「左翼」は怖い存在で、近づか



ないという浅知恵が若者の意識の主流になり、現在まで続いている。

### 1 劇画「レッド」(山本直樹)について

山岳ベースから浅間山荘事件に到る過程を素材にした作品は『十六の墓標 下一炎と死の青春』や『夜の谷を行く』をはじめ、それなりにある。この出来事を正確に捉えるならば、私は山本直樹作、劇画『レッド』がふさわしいと思っている。この作品は実在した人物を山岳名に置き換えて、事実をありのままに描写している。

ストーリーは1969年から、新左翼内の2

つの小さな党派が結合され、新党の下で山岳ベースの活動の様相が順次描かれていく。当初は主要な存在ではなかった北盛男と赤城容子がいくつかの試練を経て指導者にのし上がっていく。鬼ババと揶揄された赤城も当初は優しい側面も描かれており、山岳ベースの過程でも逡巡する場面が見られる。北も当初は気の小さい活動家で、徐々に尊大な指導者になっていく。意外なほど人間らしさが見えてくるのは、谷川と植垣康博だ。なぜ極悪非道の行為に手を染めたのかとってしまう。

この組織は女性の存在が大きく、「男女関係」も含めて微妙な人間模様を醸し出していく。それは後の「オウム真理教」と類似する。中でも宮浦、白根の存在は組織の中でも特異な存在であった。女性兵士薬師や天城の人間像も生々しすぎる。いずれにしろ、登場人物をリアルに描いている。

## 2 究極の「過激派」連合赤軍

そもそもこの連合赤軍は、第2次ブンドでの分派で武装闘争に純化した赤軍派と毛沢東思想の「鉄砲から政権が生まれる」を極限まで戯画化した京浜・中京安保共闘（革命左派）の戦術面での野合で生まれた。スターリン主義を批判する赤軍派と中国革命の影響を受けスターリン理論の影響を受けた革命左派が一緒になること自体がご都合主義であるが、当事者たちは真剣であった。

「革命」という大義のためには殺人や強盗も許されるという思想は、当然にも大衆から離反することになった。しかしこの書を最初から読んでいくと、地方大学でのバリケード封鎖から始まり、戦術の先鋭化からの離脱に分化していく。当時の新左翼の最も精鋭化した部分が結集した。国際社会も、ベトナム戦争の激化、パレスチナ解放闘争の先鋭化という側面と、一方では中国封じ込めから、米中接近という多くの変化があった。

前述した人物以外にも、黒部三兄弟、吾妻志賀等の人物像も詳細に描かれている。吾妻は妊娠した宮浦の相手であったが、あさま山荘では説得にやって来た母親の「どうしても撃つというのなら私を撃ちなさい！」という絶叫に対し、彼女が乗る装甲車に向かって発砲した事実も有名である。

日本の左翼運動は今も「権威主義」や上から目線の運動も一部には残存するが、新左翼運動はその裏返し、アンチテーゼとして存在した。60年代後半から70年代初めにかけての幾万にもなる若者が闘いに立ちあがったが、その担い手の多くは、運動が衰退局面になると姿を消し、個々には色々逡巡はあっただろうが、いつの間にか「企業戦士」として成長するのは学生時代の下準備があったからだろう。もちろん少数派だが、自分の生涯を自分の理念で全うした人もいれば、自らのベクトルの手直しをして新たな分野で活躍している人もいる。市民運動やあるいは最高幹部が駐車場の管理人をしたりし尿くみ取り業者になったりという選択肢も存在した。

### おわりに

左翼のナルチシズムは今なお健在である。個々の弱点もある。それを利用した体制側からの分断の垣根をどう越えるか。しかも垣根の向こう側の岩盤はこの30年でより広く固くなった一方、こちら側の岩盤は揺らぎ小さくなりつつある。この現実を我が方は余り理解していないようである。大衆の「ふわっと」した空気をつかむのがうまいポピュリストの巧妙な言辞にふり回され術中にはまっているケースもよく見られる。我々は過去の出来事から学ぶべきことは多々ある。

「レッド」にはこうしてはいけないという反面教師が描かれている。それが教訓化されないのはなぜであろうか？たかが劇画だが計13巻もある。見て読むことによって、当時の状況が見えてくる。(さくらいよしゆき)

## 労働運動と共謀罪(八)

木村 直樹

「威力」とは「力」を強めた表現に過ぎないのでどこか違うニュアンスがあるのはなぜだろう。文字面からくるのか幕末名古屋の国学者鈴木胤の「威ハ人体・物体」(『論語参解』)という説では、「威儀を繕ふて命令を下す稽古をする」(クロボトキン、幸徳秋水訳『麵麴の略取』)もこの例か。

### 暴処法(暴力行為処罰法)

「暴力行為等処罰ニ関スル法律」(いわゆる「暴力行為処罰法」略して「暴処法」)は労働運動、革命運動の盛んであった大正15年に治安警察法(明治33年)に加えて制定された。その後の治安維持法(大正15年)が猛威をふるい、戦後廃止され、続いて治安警察法が廃止されてもなお、現代に生き延びている悪法である。

第一条「団体若ハ多衆ノ威力ヲ示シ」と始まり、第二条「財産上不正ノ利益ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ第一条ノ方法ニ依リ面会ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行為ヲ為シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ十万円以下ノ罰金ニ処ス」とあるように実際の傷害など暴力行為以外に網を掛けるものである。ここに「威力」や「威迫」とあるのは「強い力」「強く迫る」とほぼ同じ意味であるが、それ以上の意味を帯びる。

今日では「威迫とは人に不安の念を抱かせるに足る行為」とした1966年の最高裁第二小法廷の判決が影響を与える。「威迫」は刑法105の2に由来する。

逆に「警察の威信をかけて」等と使われる「威信」には悪いイメージはない。また「威光」はどうだろう。菅元首相の長男菅正剛氏

の勤める「東北新社」からの会食接待に山田真貴子内閣広報官が応じた背景として「野党は官僚人事に強い影響力を持つ首相の威光を恐れたという見方を強めている」(「中日」2021年2月23日)とした。

「脅威」という言葉もよく使われる。「中国の脅威」等である。

大正時代のみならず労働運動・街頭で「示威行進」をやったといっっては検束された歴史がある。今は公安委員会に届け出ていわゆる「示威行進」(デモ行進)は許可されている。イラク訴訟の時、裁判長に抗議するためシュプレヒコールしながら、そのまま裁判所を一周したことがあった。すぐに近くの県警本部から一群の警察官がやって来た。中谷弁護士などがすかさず対応したが、木村が引き取って、警察官にこれは無届の示威行進ではなく抗議活動である、いかに裁判長の訴訟指揮が酷いか、話をしているうちに裁判所を巡る抗議活動は終了した。

### 「業務妨害」の結果が発生しなくても「威圧感」があれば

先の2月21日関西生コンにかかわる大阪港SSなどのストライキ事件の判決で、西山直洋さんら関生支部組合員の行為が「強度かつ執拗に心理的な威圧感を与えるものであった」ので、「威力業務妨害罪が成立するためには、現に業務妨害の結果が発生したことは必要ない」と言ったのには耳を疑った。そして実行行為さえない「共謀罪」を連想した。

「威力」は明治13年、旧刑法の元になったフランス刑法にある「force」(力)が翻訳されたものであった。

.....  
.....

# 「国策との闘い」 奥間政則さんの報告

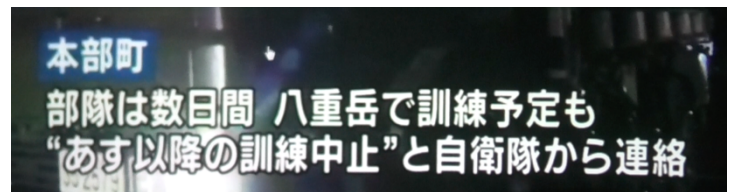
たかだ洋子

市民の活動が自衛隊の演習も、米軍の演習も、実際に阻止している様子を聞いた。真実を伝える続けるために奥間さんは空から写真を撮って(ドローンプロジェクト)国策と闘い続けている。



2021年11月27日 NHK 報道「抗議と桜で八重岳の訓練中止に：自衛隊大規模演習」

神奈川から派遣された自衛隊に「桜公園を壊さないで」本部町の八重岳で座り込み 19 日—30 日の自衛隊演習、市民の抗議活動で訓練中止。山頂に向かう道路で車両搬入を阻止、道路脇からの桜の枝が伸び、この枝が車両の通行を邪魔した。彼らはその日訓練を断念した。もし市民による監視がなければ、彼らは、桜の枝を折って上っていったらう。



## 全港湾のたたかい 米軍の軍事訓練を止めた市民運動 2019年9月17日

全港湾の労働者ががっちりスクラムを組んで座り込んだ。早朝6時から市民は行動した。在沖米軍海兵隊は、本部港から伊江島に向け、訓練のため、トレーラーでゴムボートを港入り口に運び込もうとした。機動隊はゲートの前で全港湾が座り込んでいたのを見て、80名ほどに動員したが、港のゲートは5時に閉まる。16時23分、市民グループがゲート前、全港湾がゲートの後ろを塞ぐ。指揮者は「排除！」の命令を出すことを断念した。(全港湾写真は奥間さん提供)



奥間さんはこう語る。「オール沖縄という大きな組織は動かなかった。オール沖縄は唯一辺野古を止めるためにできた組織なので、辺野古のこと以外では動かないのが残念だ。」「しかしこの行動はアメリカでも注目され、ほんの数十人の住民が米軍の訓練を中止させたことを元国防長官が驚いたと、沖縄タイムスが掲載した。」港湾労働者の凄さは「5-6年前那覇の港に自衛隊が勝手に接岸して物資を積みおろそうとした時に、港湾労働者が立ち上がりそれを全力で阻止した。」また、「塩川の港で辺野古への土砂搬出が始まった頃、市民の阻止行動に全港湾も参加したが機動隊が市民と同じように港湾労働者を排除した時、全港湾の沖縄支部長は『お前らは港湾労働者を港から排除するのがどういうことかわかるか、全国で行動を起こすぞ』と逆に脅した。プライドのある労働者が全国にいる。運動は疲弊しているが、小さなグループでも米軍の演習も自衛隊も、止めた。」

## 第87回ユニオン学校

日時：2022年4月30日（土）13時30分 @市民活動推進センター集会室  
「『搾取』は、どのように語られてきたのか」お話：木村直樹さん（社会運動史家）

労働者が職場で安心して働き、生活するために必要な賃金。しかし、これが納得のいかない安さだったり、ある日、突然下げられたりした場合、労働組合で闘い納得のいく賃金を勝ちとります。しかし「会社に雇ってもらって働いているのだから社長の決めたことには逆らえないのでは？」と思いがちです。これをくつがえし「搾取」のしくみを明らかにし、賃金の引き上げを勝ち取ってきたのが労働組合運動の歴史です。今回のユニオン学校では「搾取」がどのように語られ、明らかにされてきたか、そしてそれを現代の労働者にどう語るのかを考えます。そのために理解しておかなければならないのが資本主義下における労働者への「搾取」のしくみです。

### ■不戦へのネットワーク 総会&記念講演

日時：2022年4月16日（土）13:30 ~ 16:00

場所：東別院会館 葵の間（地下鉄名城線「東別院」下車4番出口より西に徒歩約5分）

第一部：総会 13:30~14:30

第二部：記念講演「米中対立の中での自衛隊・米軍」

飯島滋明さん（名古屋学院大学教授 憲法・平和学）参加費：無料

### ■環境連続講座

第1回「気候変動の基礎」第2回「気候正義：産業の転換と公正な移行」はアーカイブで。  
（「環境連続講座東海」を入力してWIXのページを見つける。または直接入力。

<https://idnatom.wixsite.com/climate-c>

## 編集後記

ベトナム戦争を思い出している。爆撃する無法者、侵略者はアメリカだった。ベトナム人民はソ連製の武器で戦っていた。私はベトナム人民支援の活動をした。反戦活動だと思い込んでいたが、しかしそれは一方に肩入れした活動だったことがわかる。私はアメリカ帝国主義との戦いの側にいた。ところで、ウクライナ政府は米国製武器の供与を受けアメリカの軍事訓練を受けている。アメリカはロシアを追い詰めるだろう。私はウクライナ政府を支援するか？私はアメリカ帝国主義と戦う側にいた自分を間違っていたと思わない。しかし本来反戦活動なら「ベトナム人民支援」ではなく「戦争をやめろ」の活動にするべきだった。戦争になぜ反対するのか？戦争とは人を殺し生活を破壊して勝敗が決まる。死ぬのはプーチンでもバイデンでもない。「多くの人々」だ。二人で決闘しろ。私たちが巻き込むな。私は、どちらの側にも立たずに『戦争やめろ！』と言う。『武力勝敗で決着つける思想』が敵なのだ。（たかだ洋子）

### ■□ 事務局連絡先 □■

〒456-0006  
名古屋市熱田区沢下町9-3  
労働会館本館306号 健康センター内  
Tel&(fax)：052-883-6966(6983)  
メール：sfl7wtkq@tg.commufa.jp

1部100円

### 本年度の会費・カンパの振込をお願いします

振込先

郵便振込

口座番号：00820-7-169123

## ユニオンと連帯する市民の会

お願い！ 原稿、感想、情報、意見をお寄せ下さい。